生長の家環境マネジメントシステム
2020年度 環境パフォーマンス報告書

ISO14001国際規格に基づき、2020年度（１月～12月）の
生長の家における環境パフォーマンスを報告します。

発　行：2021年12月25日
作　成：宗教法人「生長の家」 国際本部環境共生部
担　当：環境共生部（桜井、河野）
問い合わせ先：山梨県北杜市大泉町西井出8240番地2103
TEL：0551-45-7747（直通）

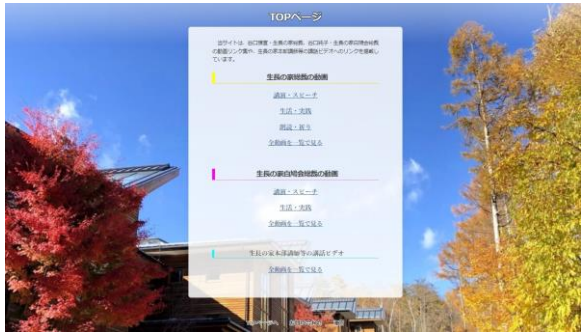
教団としての啓発活動

生長の家では、「神・自然・人間は本来一体である」という宗教的真理に基づいて、人々のライフスタイルを自然と調和した持続可能なあり方に転換して行くことを目指し、地球環境問題の解決に貢献する生き方を推奨しました。

新年のビデオメッセージ

2020年１月１日、谷口雅宣・生長の家総裁の新年のビデオメッセージを、生長の家公式サイトで一般に公開。メッセージの中で、大容量の蓄電池を“森の中のオフィス”に増設して“オフグリッド”のシステムを構築したことを紹介。また、物や便利さなどを追求する道は、貧富の格差を拡げ、テロや国際紛争を拡大する“戦争への道”であると指摘し、2020年は、価値観とライフスタイルを変える「選択の年」であると強調しました。同ビデオは、英語、ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語、ドイツ語の６言語の字幕入り動画も同時に公開されました。

SNI-動画リンク集



谷口雅宣・生長の家総裁、谷口純子・生長の家白鳩会総裁の動画リンク集や、生長の家本部講師等の講話ビデオへのリンクをまとめたウェブページを公開しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、生長の家講習会をはじめ、講演会、練成会、誌友会等の対面の行事が開催することが難しい状況の中、この取り組みは生まれました。掲載の動画は、どなたでもご視聴いただけます。どうぞ環境保全の啓発、また明るい人生を築くための指針や活力として、自己研鑽やネットフォーム等において積極的にご活用ください。

生長の家の動画リンク集：
https://snivideolinks.ubemstudygroup.com/

書籍、月刊誌

谷口雅宣・生長の家総裁監修の『“新しい文明”を築こう（上巻）基礎篇「運動の基礎」』『“新しい文明”を築こう（中巻）実践篇「運動の具体的展開」』、谷口純子・生長の家白鳩会総裁著の『46億年のいのち』等の書籍の頒布を通じて、自然と人がともに繁栄する“新しい文明”のライフスタイルへの転換を促しました。また、生長の家の組織会員向けの月刊誌（機関誌『生長の家』）、一般向けの月刊誌『いのちの環』（総合誌）『白鳩』（女性誌）『日時計24』（青年誌）に、毎号、環境保全に関する記事を掲載しました。

写真：月刊誌『いのちの環』『白鳩』
『日時計２４』（各2021年１月号）

ＰＢＳ（プロジェクト型組織）の活動を通して

生長の家では、人間の欲望追求のために自然を破壊し、地球温暖化による気候変動を引き起こしている“古い文明”から、自然の繁栄が人間の繁栄となる“新しい文明”への転換を促すために、PBS（プロジェクト型組織、以下の３つの組織）によってその価値観とライフスタイルを生活の中で実践し、ミニイベントの開催やインターネット上のFacebookなどのSNSを使って広める活動に取り組みました。

SNIオーガニック菜園部

SNIオーガニック菜園部は、「ノーミート、低炭素の食生活」を実践し、普及するPBSです。メンバーがノーミートの食生活を心がけることはもちろん、野菜や穀物については、有機農法によってベランダや家庭菜園で自ら栽培することに挑戦し、それらを収穫し食すことで、地域と季節に即した自然の恵みの有難さを味わい、地域の人々とも共有しています。

また、購入する食材は、有機無農薬で、地産地消・旬産旬消のものを選ぶことを勧めています。

写真：「夏野菜の種まき」４名でミニトマト、落花生、ズッキーニ、ニガウリ、カボチャの６種類の野菜の種を育苗ポットに植えました。（2020年３月、京都府）

SNI自転車部

SNI自転車部は、「省資源、低炭素の生活法」を実践し、普及するPBSです。自転車はガソリン車の燃料となる化石燃料を使わず、CO2を排出せずに移動できる大きなメリットがあります。この自転車を生活の中で活用することで、二酸化炭素の排出を抑制し、地球環境保全に大きく貢献することができます。

また、上達する喜び、風を切って走る爽快感は子供も大人も、国も超えて世界共通です。自転車の利用で心豊かで健康的な毎日を送ることができ、その意義と楽しさを世界に伝えることによって世界平和を目指しています。

写真：「家族で自転車に乗って神社参拝」奥様に電動アシスト自転車を購入し、家族３人で産土神社へ自転車で参拝しました。（2020年３月、山梨県）

SNIクラフト倶楽部

SNIクラフト倶楽部は、「自然重視、低炭素の表現活動」を実践し、普及するPBSです。メンバーは、箸や写真立て、小物入れ用のポーチなど、生活の中で手にする身近なモノを、自分の手でつくっています。モノづくりに欠かせない“素材選び”は、木材なら国産材、植物や動物から分けてもらえる天然繊維の糸や布など、自然重視の選択をします。安く・早く・楽に手に入る大量生産、大量消費の消費生活から、身の回りのモノを大切に生かす、丁寧なライフスタイルを広めています。

写真：「布マスクを寄付」市販のマスクが品薄になる中、SNIクラフト倶楽部メンバーで、手作りマスクを病院や保育園に寄付しました。（2020年５月、山梨県）

インターネットでの啓発、家庭での取り組み

生長の家では、インターネットによる情報発信力を高めるため、公式サイトや生長の家遠隔情報交流会（生長の家ネットフォーラム）に取り組みました。生長の家の会員、信徒には、信仰に基づく倫理的な生活者として、自然と人間が調和した“新しい文明”の実現を目指して、低炭素なライフスタイルへの転換を進め、地球環境問題の解決に貢献する生活実践の素晴らしさを発信しました。

インターネットを活用した啓発

生長の家公式サイトを活用し、低炭素のライフスタイルの普及とそれを実践するPBSの活動を前面に打ち出しています。

また、SNI-動画リンク集の谷口雅宣・生長の家総裁、谷口純子・生長の家白鳩会総裁の動画や、生長の家本部講師等の講話ビデオをインターネット上（Facebookやzoom等）で視聴して、参加者同士が感想や意見を交換する生長の家遠隔情報交流会（生長の家ネットフォーラム）を開催し、積極的に啓発活動に取り組みました。

写真：生長の家公式サイト のトップページ

『日時計日記』と「生活の記録表」の活用

『日時計日記』（2020年版）

「生活の記録表」（2020年版）

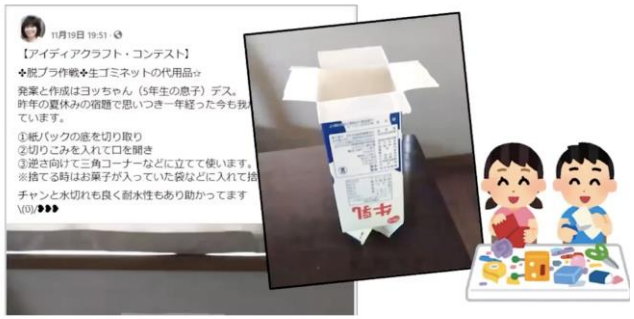
谷口純子・生長の家白鳩会総裁監修の『日時計日記 2020年版』（生長の家刊）を活用して、その日の「環境に配慮したこと」の記載や「生活の記録表」を用いて記載することを推奨しました。会員、信徒などを対象に「生活の記録表」（生長の家国際本部発行、43,000部）を活用し、電気、ガス、水道、灯油、ガソリンの消費量とCO2排出量を記録し、自宅に太陽光発電装置を設置している場合には、その売電量に見合うCO2削減量も加算することにして、前年と比較してCO2排出量の削減に取り組みました。

また、2016年４月からの電力の自由化に伴い、原発や火力発電所由来ではなく、環境負荷の少ない再生可能な自然エネルギーからの電力の調達比率が高い新電力（PPS）を選択することを推奨しました。「生活の記録表」の配布によるCO2排出削減の取り組みは2001年度から継続しています。

生長の家自然の恵みネットフォーラムを初開催

Facebookの公開グループで「自然の恵みネットフォーラム」が、初めて開催されました。 ①アイディアクラフト・コンテスト、②写真コンテスト「私のバイク、私の自然」、③お国自慢コンテスト、④ノーミートの食レポ、⑤コロナ自粛期間の私の過ごし方、⑥わが家の防災グッズ　の６つのテーマに沿って、活発な投稿が行われました。インターネットを活用し、“自然と共に伸びる”生き方を今こそ多くの人に伝えようとの思いで開催しました。

“アイディアクラフト・コンテスト”



日常生活に取り入れたくなるような、自然に配慮したクラフトのアイディアを投稿しました。

“写真コンテスト「私のバイク、私の自然」”

自転車に乗って地元で見つけた自然の風景を写真に撮り、エピソードと共に投稿しました。

“お国自慢コンテスト”

地域の自然や伝統、風習、郷土料理、文化などの奥深い意義を再発見し、広く共有しました。

“ノーミートの食レポ”

家庭菜園や地元食材を使ったノーミート料理、地域のオーガニックレストランの料理等の食レポ、レシピ等を投稿しました。

“コロナ自粛期間の私の過ごし方”

外出制限などの生活の変化を前向きに捉え、今までなかなか取り組めなかったことに挑戦したエピソード等を投稿し共有しました。

“わが家の防災グッズ”

各家庭の備蓄や防災グッズについて投稿し、日頃の備えについて見直し、防災意識を高めました。

自然エネルギー拡大運動を推進

生長の家では、人類社会が自然エネルギーを全面的に利用することによって「脱原発」と「地球温暖化の抑制」を実現し、自然と人間がより調和した生き方を実現することを目的として、自然エネルギー拡大運動を展開しています。

自然エネルギー拡大募金を継続

2014年７月１日から開始した「生長の家自然エネルギー拡大募金」では、2020年度は、1911口、19,110,000円（2020年１月１日～12月31日）の募金が集まり、累計金額では539,000,000円となりました。

2017年からは、現地の太陽光パネルには寄付者名（希望者）を銘板に掲示することに加えて、日本語版ウェブサイトでも寄付者名を閲覧できるようにしました。

写真：自然エネルギー拡大募金のウェブサイト
https://www.jp.seicho-no-ie.org/naturalpower/

大分・別府地熱発電所が竣工

自然エネルギー拡大運動の一環として、大分県別府市に教団初の地熱発電所を2019年４月10日に竣工、2020年10月から稼働しました。「生長の家京都・城陽メガソーラー発電所」「生長の家福島・西郷ソーラー発電所」に続く３カ所目の発電所となりました。発電出力は50kW、年間予想発電量は、34.5万kWh。地熱発電は、24時間発電できるため、設備利用率は80%以上で、12%程度の太陽光発電より効率よく発電ができます。

写真：生長の家大分・別府地熱発電所（別府市）

自然エネルギー利用への助成

自然エネルギーの利用を促進するために、組織会員を対象に、太陽光発電・小型風力発電装置、リチウムイオン蓄電池、電気自動車の導入に際して、助成金を支給しています。

【2020年度の助成の実績】
◆太陽光発電装置の導入件数
24件：助成金額 3,319,000円
※発電出力１kWあたり２万円
◆電気自動車の導入件数
７件：助成金額 1,908,000円
※１台上限30万円、本体価格の10%まで
◆リチウムイオン蓄電池の導入件数
23件：助成金額　1,600,000円
※１kWhあたり１万円

“炭素ゼロ”運動の成果

生長の家では、2007年度から教団の活動に伴うCO2排出量を実質的にゼロにする“炭素ゼロ”の運動を展開してきました。過去12年間で進めてきた“炭素ゼロ”の運動は、ISO14001の取り組みによる継続的改善などによって2020年度も成果を上げることができました。

主要３事業所が14年連続で達成

2020年度の主要３事業所（国際本部、総本山、宇治別格本山）におけるエネルギー起源８項目（電気、都市ガス、LPガス、灯油、A重油、ガソリン、軽油、上下水道）のCO2排出量、並びに職員の出張・外勤の移動や本部主催の行事参加者の移動に伴うCO2排出量は、2007年度から14年連続で“炭素ゼロ”を達成しました。

炭素排出量	509,236.7 kgCO2
炭素相殺量	-2,063,587.0 kgCO2
総　合　計	-1,554,350.3 kgCO2

写真：宇治別格本山（京都府宇治市）が京都府綾部市に建設したメガソーラー発電所（1,255kW）

他61事業所も“炭素ゼロ”

2020年度の国内の事業所（教化部・練成道場）計61カ所におけるエネルギー起源８項目等のCO2排出量の総合計は、昨年に続き、排出権を購入することなく相殺することができ、“炭素ゼロ”を達成しました。

炭素排出量	996,730.5 CO2kg
炭素相殺量	-1,810,461.4 CO2kg
総　合　計	-813,730.9 CO2kg

※炭素相殺量とは太陽光発電の売電分、森林吸収分、自然エネルギー拡大募金による削減分などによって見込まれる炭素削減量のこと。

写真：岡山県教化部会館（岡山市）の太陽光発電装置（50kW）

省エネ、再エネ利用による削減

左記の“炭素ゼロ”の達成の要因としては、各事業所の省エネの取り組みが着実に進んでいること、電力購入先をCO2の排出係数の低いPPS（新電力）へ切り替えていること、事業所の太陽光発電の発電による炭素削減効果、事業所が所有する森林のCO2吸収量による炭素削減、植樹植林等の会員努力、メガソーラー・大規模ソーラーの発電による炭素削減量（次頁参照）を、各教区からの自然エネルギー拡大募金の口数に応じて配分したことなどが奏功しています。

写真：福島・西郷ソーラー発電所（福島県）

“炭素ゼロ”運動の成果

生長の家の京都・城陽メガソーラー発電所、福島・西郷ソーラー発電所、及び国内の事業所の太陽光発電装置によって、二酸化炭素排出削減が進み、教団全体の“炭素ゼロ”達成に大きく貢献しています。こうした国内の太陽光発電装置だけでなく、海外を含めた発電出力を合算すると１４メガワットを超えており、生長の家国際太陽光発電所（仮想）と名付けて啓発を行っています。

大規模ソーラーの炭素削減量

974世帯分　杉80,812本分

生長の家が建設した京都・城陽メガソーラー発電所（2015年３月稼働）、福島・西郷ソーラー発電所（2015年12月稼働）、大分・別府地熱発電所（2020年10月稼働）の３カ所の2020年度の発電量は以下の通りとなりました。

【2020年度の発電量】

京都・城陽メガソーラー発電所：1,976,612 kWh
（一般家庭の約665世帯分に相当）

福島・西郷ソーラー発電所　：　840,485 kWh
（一般家庭の約283世帯分に相当）

大分・別府地熱発電所　：　78,965　kWh
（一般家庭の約27世帯分に相当）

３発電所の発電量の合計　：2,896,062 kWh
（一般家庭の約974世帯分に相当）

３発電所によるCO2削減量の合計：1,131,365 kgCO2
（杉の木の年間CO2吸収量に換算すると80,812本分に相当）

太陽光発電全体の炭素削減量

2,495世帯分

杉268,286本分

2020年度、太陽光発電装置を設置しているのは55事業所、102カ所。総発電出力は約7511.3kWに上り、年間に約751万kWhを発電し、約3,756トンのCO2を削減しました。
（各発電量はNEDOによる推定値を採用）

【56事業所の内訳】

本部関係：国際本部（左掲の大規模ソーラーを含む）、総本山ほか３事業所

教　化　部：51事業所（全教化部は59）

関係団体：（一財）世界聖典普及協会

※１kW当たり年間推定発電量：1,000kWh（NEDOの資料より）

※ CO2削減量の算出根拠：（電力排出係数は、環境省・経済産業省公表の全国平均値0.500を採用）

生長の家国際太陽光発電所（仮想）

生長の家では、国内外の事業所だけでなく、国内の組織会員、海外の聖使命会員が設置している太陽光発電装置の発電出力を合算して表示する仮想発電所を「生長の家国際太陽光発電所」として、その発電出力の総合計を、組織会員向けの機関誌、一般向けの３種の月刊誌に掲載して、自然エネルギーの拡大を啓発しています。

2020年12月15日の発電出力：14507.13kW
（前年比＋22.3kW）

写真：一般向け月刊誌３誌に毎号掲載している「生長の家国際太陽光発電所」の例

森林保全活動への寄付と飢餓救済のための募金活動

生長の家では、森林の減少を少しでも食い止めるため、ＷＷＦジャパンによる森林保全活動に寄付を行って支援をしています。また、生長の家“森の中のオフィス”では、飢餓救済を目的とし、毎月１回、食堂利用者に提供される昼食を、一杯のご飯と味噌汁だけにする「一汁一飯（いちじゅういっぱん）」に取り組み、ＷＦＰへの寄付を実施しています。

ＷＷＦの森林保全活動に寄付

生長の家では、ＷＷＦジャパンによる「インドネシア森林保全プロジェクト」に寄付しました。日本国内で継続している「生物多様性保全募金」の全額、及び①谷口雅宣・生長の家総裁の著書（谷口純子・生長の家白鳩会総裁との共著を含む）の益金の一部と、②生長の家の月刊誌３誌の森林寄付金（１誌に付１円）分から200万円を含め、2020年度は、総額 3,957,906円でした。この寄付金は、インドネシアのスマトラ島の２つの国立公園周辺及び、ボルネオ島の３つの州において、熱帯林を保護するためのパトロール、植林、調査活動、地域住民への環境教育の実施などに役立てられています。

写真：森を守る次世代を育てる環境教育の実施

「一汁一飯」で飢餓救済に寄付

生長の家“森の中のオフィス”の職員食堂では、2014年４月から、環境問題は資源や飢餓の問題と密接に関係しているとの観点から、世界の飢餓に苦しむ人々に心を寄せ、毎月１回「一汁一飯」の日を設け、減らした食材費で１食300円を寄付する活動を始め、取り組みは生長の家の世界の各拠点に拡がっています。2020年度の寄付金額は135,000円（450食分）になり、民間協力の窓口である認定NPO法人国連WFP協会を通じて国連WFP本部（ローマ）に寄付をしています。

写真：一杯のご飯と味噌汁だけの「一汁一飯」

クリック募金で飢餓救済に寄付

生長の家の産業人の組織である生長の家栄える会では、同会公式サイトで「飢餓救済クリック募金」を運営し、ユーザーがクリックをすると、協賛している企業等より、毎月そのアクセス数に応じた金額がNPO法人国連WFP協会を通じて国連WFP本部（ローマ）に寄付され、飢餓に苦しむ人々に食糧が届けられる仕組みを作り、活用しています。
2020年度の寄付金額は1,106,223円（協賛企業16社）となりました。

飢餓救済クリック募金
http://www.jp.seicho-no-ie.org/kiga/index.html

生長の家国際本部における啓発活動

教団外への啓発活動として、生長の家“森の中のオフィス”では、オフグリッド化をはじめとする様々な活動を通して、その背景にある教えを紹介し、環境保全への啓発活動を行っています。

オフグリッド化の各誌への掲載、フードバンクや生活困窮者への寄付、マスク寄付

“森の中のオフィス”が電力会社の配電網と連携せず、自然エネルギー100%で運用するオフグリッド化が注目される。

“森の中のオフィス”のオフグリッド化について「電気設備学会誌」第40巻第９号に論文が掲載されました。

“森の中のオフィス”のオフグリッド化について『日経アーキテクチュア』2020年12月24日号に記事が掲載されました。

生長の家国際本部職員有志より、フードバンク山梨と北杜市社会福祉協議会に合わせて210万円の寄付を行いました。

生長の家国際本部職員とその家族が、手作りマスク315枚を北杜市社会福祉協議会、長坂保育園、いずみ保育園に寄付しました。

新型コロナによる困窮者への寄付金で県社会福祉協議会会長から「感謝状」を授与されました。

ＺＥＢ（ゼロ・エネルギー・ビル）の成果

生長の家“森の中のオフィス”は、国内で初となるZEBとして建設され、運用段階での年間のエネルギー消費量を省エネルギーによって極力削減し、太陽光発電やバイオマス発電による創エネルギーで、実質ゼロにするものです。このコンセプトを国内の教化部会館などの建て替えに順次適用させています。

“森の中のオフィス”（山梨県北杜市）

生長の家“森の中のオフィス”

2020年度の“森の中のオフィス”の電力量年間集計では、発電量が使用量を大きく上回り、ZEBを越えてPEBを８年連続で達成しました。

年間の発電量480,484kWh、使用量477,974kWh、買電量17,753kWh、売電量は20,263kWhでした。※PEB（ポジティブ・エネルギー・ビルディング）

原宿光明の塔（東京都渋谷区）

生長の家原宿光明の塔

2020年度の原宿光明の塔（旧国際本部会館の一部を教団の歴史的建造物として残した建物）の電力量年間集計では、発電量35,358kWh、使用量44,287kWh、買電量32,181kWh、売電量23,252kWhとなり、PEBとなりました。

メディアセンター（山梨県北杜市）

生長の家メディアセンター

2020年度のメディアセンター（出版・広報部門のオフィス、スタジオ兼ギャラリー）の電力量年間集計では、“森の中のオフィス”同様、発電量が使用量を大きく上回り、ZEBを越えてPEBを達成しました。年間の発電量58,944kWh、使用量31,198kWh、買電量17,493kWh、売電量は45,239kWhでした。

茨城県教化部（茨城県笠間市）

生長の家茨城県教化部会館

2020年度の生長の家茨城県教化部会館は、発電量が使用量を大きく上回り、ZEBを越えてPEBを達成しました。年間の発電量69,207kWh、使用量13,924kWh、買電量17,217kWh、売電量は55,283kWhでした。

教団初となるオフグリッド化を実現（福島県教化部）

東日本大震災から、９年を迎えようとする2020年１月18日、生長の家福島県教化部新会館が落慶しました。この新会館は、教団初となるオフグリッドシステム（電力会社とつながずに電力を自給するシステム）を導入した建物です。最新技術と自然エネルギーを活用した“脱原発”と“低炭素”のメッセージが、福島から国内外に発信されることになります。

新会館で行われた落慶捧堂祭

教化部長による祝詞奏上（大道場）

落慶捧堂祭は大道場で行われ、生長の家の役職員他、地元の信徒、設計施工を担った八光建設株式会社の皆様はじめ112名が参列しました。

関係者による挨拶に加え、震災当日からの建設経緯、設計コンセプト等について説明が行われました。

自然エネルギーを最大限に活用

自然エネルギーによる創エネ

新会館最大の特徴は、「オフグリッドシステム」です。電力会社（グリッド）とつながずに、電力自給を実現するため、新会館の屋根に40kW、野外にも50kWの太陽光発電設備を設置しました。

屋根の傾斜も太陽光パネルの性能を最大限行かせる角度（23度）にデザインしました。

自然のぬくもりを感じる空間

木の温かみを感じる食堂

館内見学において、地元の郡山産の杉材を中心に国産木材で建てられた館内に溢れる木の温もりや、和紙などの自然由来の仕上げでデザインされた優しい質感に、感嘆の声が上がりました。

最新の蓄電池システム

大容量蓄電池

オフグリッドは、自然エネルギーによる創エネと、最新の蓄電池システムや省エネ技術によって実現します。日中に発電された電気は最大蓄電量684kWｈの大容量蓄電池に蓄えられ、建物や電気自動車の電力を賄います。